

首都圏空港(羽田・成田)の年間発着枠の増加

	羽田空港 (うち国際線)	成田空港	首都圏空港全体
H22.10月まで (羽田D滑走路供用前)	30.3万回	22万回	52.3万回
H25.3.30 まで	39万回 (6万回)	25万回	64万回
現在 (H25.3.31 以降)	41万回 (6万回) 国内線2万回を増枠	27万回	68万回
以降、首都圏空港を含めたオープンスカイを実施			
最終形 (羽田:H25年度末 成田:H26年度中)	44.7万回 (9万回) 国際線3万回を増枠	30万回	74.7万回

- * 1. いずれも年間当たりの回数である。
- * 2. 回数のカウントは、1離陸で1回、1着陸で1回のため、1離着陸で2回とのカウントである。
- * 3. 羽田空港の発着枠数の中には、深夜早朝の国際チャーター便等の運航に使われる枠数も含まれる。

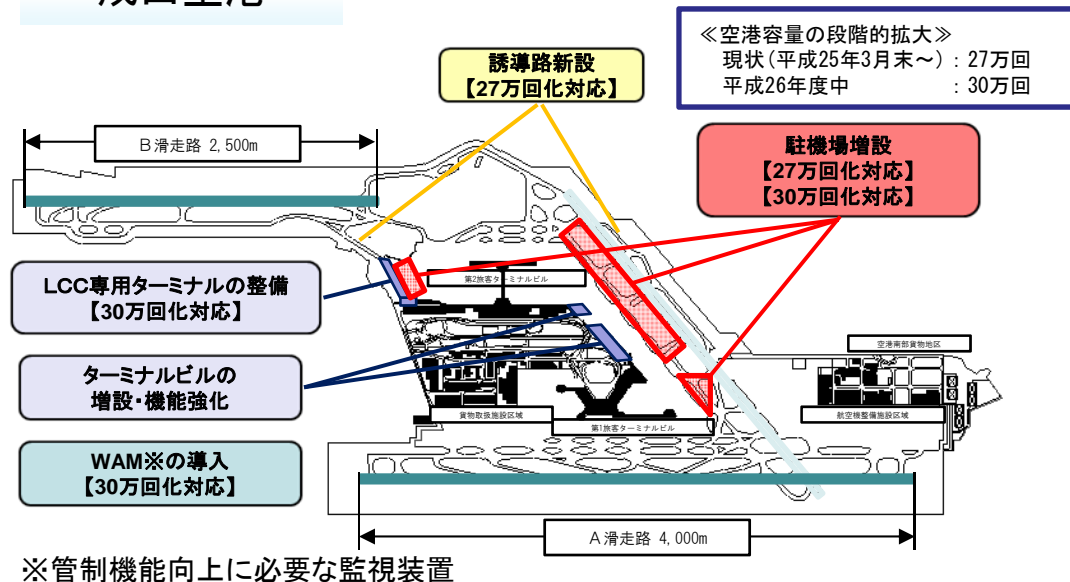
首都圏空港の機能強化に係る主要整備事業

首都圏の都市間競争力を高めるために必要な首都圏空港（羽田空港・成田空港）の機能拡充・強化のため、平成26年度中に発着容量75万回への増枠の達成を目的とした整備等を推進。

羽田空港



成田空港



【国際線地区の拡充】

- 国際線9万回への増枠に必要な整備
 - ・駐機場等の増設
 - ・CIQ施設の増設
 - ・空港アクセス道路改良

【発着容量の拡大】

- 発着容量44.7万回への増枠に必要な整備
 - ・駐機場等の新設

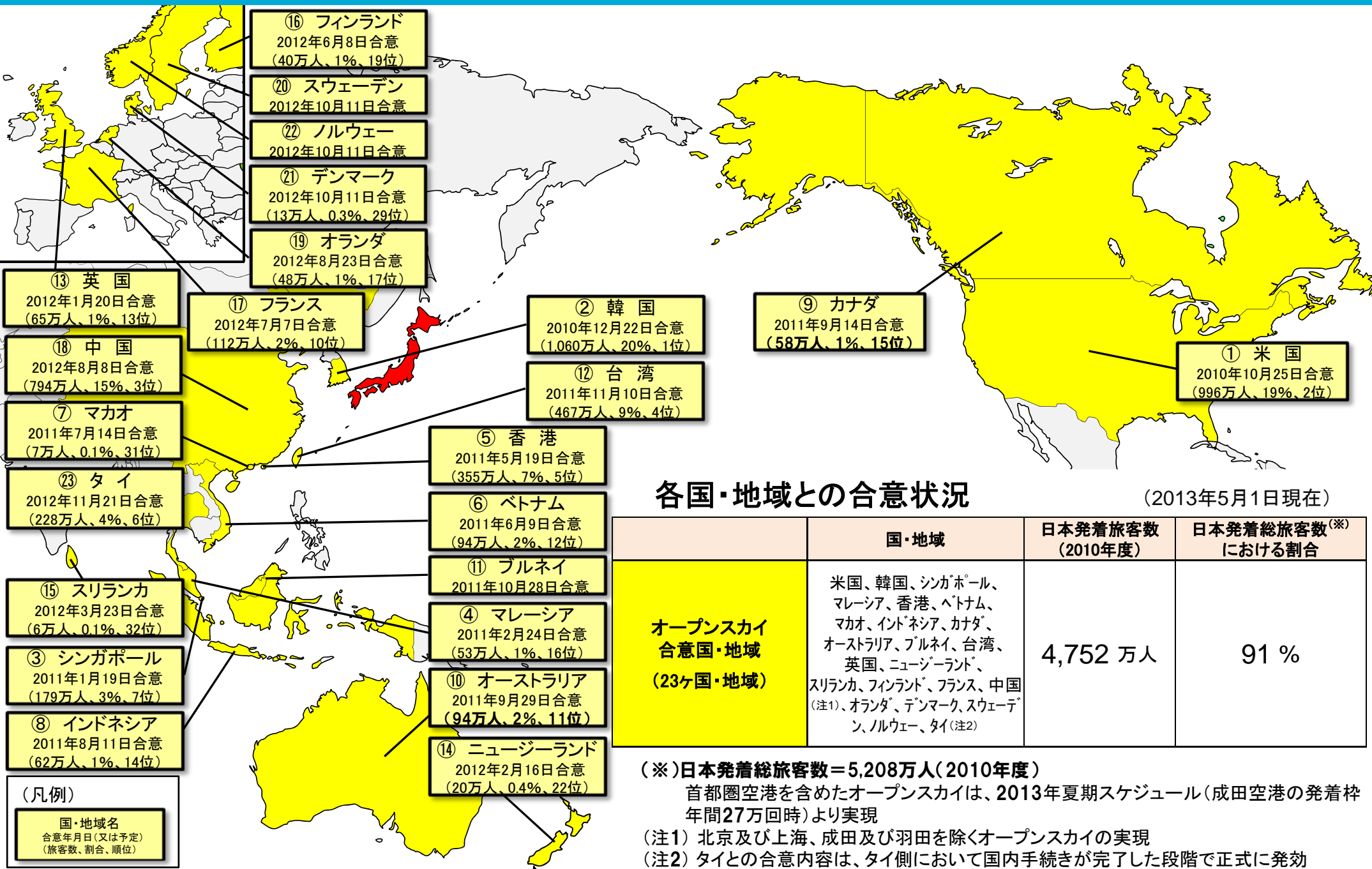
【長距離国際線の輸送能力増強】

- 深夜早朝時間帯に就航する長距離国際線の大型化を可能
 - ・C滑走路延伸事業

【管制機能の向上のための整備】

- WAMの導入
- 【施設の拡充整備等】
 - 発着容量27万回化に対応した整備
 - ・誘導路の新設
 - ・駐機場の増設
 - 発着容量30万回化に対応した整備
 - ・LCC専用ターミナルの整備
 - ・駐機場の増設
- ターミナルビルの増設・機能強化

オープンスカイ交渉の進捗状況について



各国・地域との合意状況

(2013年5月1日現在)

	国・地域	日本発着旅客数 (2010年度)	日本発着総旅客数 ^(※) における割合
オープンスカイ 合意国・地域 (23ヶ国・地域)	米国、韓国、シンガポール、マレーシア、香港、ベトナム、マカオ、インドネシア、カナダ、オーストラリア、ブルネイ、台湾、英国、ニュージーランド、スリランカ、フィンランド、フランス、中国 (注1)、オランダ、デンマーク、スウェーデン、ノルウェー、タイ(注2)	4,752 万人	91 %

(※)日本発着総旅客数=5,208万人(2010年度)

首都圏空港を含めたオープンスカイは、2013年夏期スケジュール(成田空港の発着枠年間27万回時)より実現

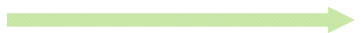
(注1) 北京及び上海、成田及び羽田を除くオープンスカイの実現

(注2) タイとの合意内容は、タイ側において国内手続きが完了した段階で正式に発効

羽田空港再拡張後の飛行経路

【出発経路】

6000ft未満



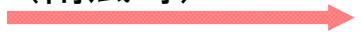
6000ft以上



【到着経路】

6000ft未満

(南風時)



(北風時)

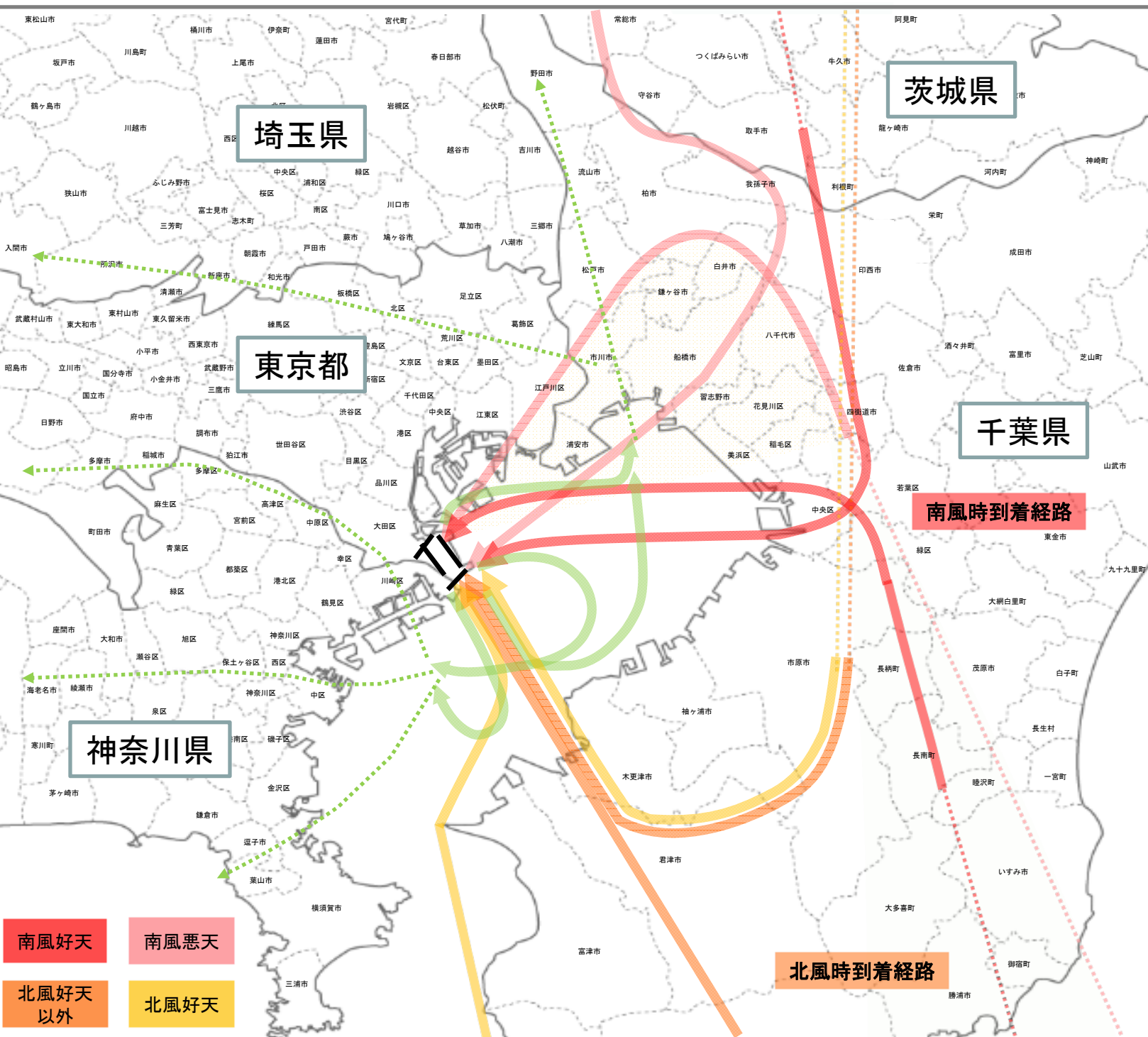


6000ft以上

(南風時)



(北風時)



南風好天	南風悪天
北風好天以外	北風好天

北風時到着経路